

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【神田小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 児童間において、前学年や前単元の学習内容の定着や習得状況に差が見られる。 <指導上の課題> 児童一人ひとりの学習状況に合わせた反復・習熟の時間や機会の設定が不十分である。	⇒ - 単元の最初や途中で、前学年や前単元の内容を復習する時間や機会を設ける【毎単元】。 - 単元の後半に、習った学習内容を活かす時間や機会を設ける【毎単元】。 - 児童が自分の学習状況に合わせて「ドリルパーク」等を活用する時間や機会を設ける【毎単元】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 自分の考えを表現することに苦手意識がある児童の割合が多い。 <指導上の課題> 児童主体の学習活動の機会を十分確保する必要がある。個人差が大きい。	⇒ - 学習活動や過程を明確に示し、個人で取り組む時間を確保して、見通しをもって学習できるようにする【毎単元】。 - 指示や発問を工夫し、ねらいを達成するために児童が自ら考え、協働しながら活動できる授業を実施する【毎時間】。 - 友達に話すことや書くことがたくなる教材開発や活動のバリエーションを豊かにする【毎単元】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等	
思考・判断・表現		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、漢字を文中で正しく使う問題に課題が見られた。漢字を活用する時間の確保が必要である。算数では、数直線上に示された数を分数で書く問題やはかりの目盛りを読む問題、台形を選ぶ問題において正答率の低さが顕著となった。分数や小数の単位を捉えたり、1目盛りに着目して数量を読み取ったりすることや図形の性質について理解することに課題がある。 児童質問からもわかるように、算数に苦手意識をもっている児童が多い。一方で授業に対して肯定的に捉え前向きに取り組んでいる。今後も児童主体の個別最適な学びを進めることができるよう、教職員の研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語では、「読むこと」に関する問題で正答率が低くなった。算数では、数量関係を式に表したり、式や言葉を用いて説明することに課題が見られた。問題を読み取れず、解答の仕方がわからなかったと予想される児童も多かった。児童質問からは、読書への関心や読書量に対する課題もあった。児童質問「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか」の質問に対する肯定的な回答の割合は高い。今後も、引き続き授業の工夫をしていくとともに、読書量を増やす取り組みを考えていく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	・単元の最初や途中で、前学年や前単元の内容を復習する時間や機会を設けている。 ・単元の後半に、習った学習内容を活かす時間や機会を設けることに課題がある。 ・児童が自分の学習状況に合わせて「ドリルパーク」等を活用する時間や機会を設けている。	変更なし
思考・判断・表現	B	・学習活動や過程を明確に示し、個人で取り組む時間を確保して、見通しをもって学習できるようにしている。 ・指示や発問を工夫して、ねらいを達成するため児童が自ら考え、協働しながら活動できる授業を実施するようにしている。 ・友達に話すことや書くことがたくなる教材開発や活動のバリエーションを豊かにするようにしている。	左記の手立てを実践するとともに、読書活動充実を図る【10月～読書月間の実施】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)